きっと見つかる、ずっとつながる笑顔の和

第17号
2020年
10月

わげん便り

「虹」　更生病院屋上より撮影

～目次～

・総合相模更生病院　院長/法人事業本部長より.....1-2P
・総合相模更生病院　院内感染対策室より.....3P
・各事業所の取り組み（コロナ対策）.....4-5P
・各事業所　入職式・研修.....6P
・「あの人、この人、こんな人」..前号のお詫びと訂正....7P

新型コロナウイルス感染症と共に

総合相模更生病院
院長/法人事業本部長
松本 豊

法人の全職員の皆様には、新型コロナウイルス感染症が拡大する状況下に昼夜を問わず、日々の業務に粉骨砕身の努力をお願いしている現状に、心より感謝すると共に、敬意を表したいと思います。

私共、総合相模更生病院に於きましては、本邦で初めて新型コロナウイルス感染症が確認され始めた当初に、救急搬送され結果的にPCR検査が陽性で有った患者さんを受け入れ、病院を挙げて全職員が誠心誠意、当該患者さんに向き合い、あるいは病院として新型コロナウイルス感染症に罹患した患者さんを受け入れたという事実に真摯に向き合いました。

当時はこの新型ウイルスに関する情報は乏しく、入手先は中国より発信されたものにほぼ限定されていました。手探り状態の中で、試行錯誤を繰り返し、日々奮闘して行くような状況でしたが、そのような環境下で、より科学的に精度の高い情報を収集し、病院の職員と客観的事実を冷静に共有することに注力を致しました。現在は逆に、新型コロナウイルス感染症に関する膨大な情報が、あらゆるニュース源より連日洪水の様に押し寄せて来ます。当初とは違った意味で、科学的に精度の高い情報を的確に取捨選択し咀嚼することが大変重要になっております。

最終的には、最前線で多くの御苦労と、努力並びに負担をお願いした看護スタッフを筆頭に、全職員の努力により院内感染を起こすことなく患者さんに寄り添うことが出来ました。私は様々な機会に、我々に求められている医療の本質を見失うこと無く、医療人としての誇りと使命を忘れずに全力で自らの仕事に取り組むべきであるとの信念を表明しておりますが、この姿勢は、その対象が新型コロナウイルス感染症であろうがなかろうが全く変わるべきでは無いと確信しております。

今回、当院が経験した客観的事実と科学的に精度の高い情報を冷静に共有することを最重要視した姿勢は、当法人内の全施設に於かれましても、当院が先頭に立って共有して行きたいと考えています。法人全体として全職員が医療や介護、福祉を生業としている専門職としての覚悟と矜持を持ち、より高い次元を目指していくべきであろうと思っております。様々な業務内容の客観的分析あるいはそれに基づく改善策の立案、業務の効率化、各施設間での定期的な情報交換こそが、提供すべき医療、介護、福祉サービスの質の向上につながると考えています。最終的に各々の組織がより成長をし、実力を付けていくことになる訳でも有ります。

そしてその先を見据えて

昨今、マスコミ等でも頻繁に報道されている様に、医療機関は私共の病院を含めて患者さんの受診控え、新型コロナウイルス感染症への対応により、大幅な収入減と、最前線での感染リスクの高い業務への従事により、病院の体力が著しく奪われている状況に陥っています。そんな中で問われているのは、何があっても果たすべき医療従事者としての使命を見失わずに、当院での診療を求める患者さんに誠意を持って向き合い、併せて新型コロナウイルス感染症が広がっている現状から目を背けることなく、出来る限りの努力を持ってして全力で対応することであろうと思っています。常に基本に立ち返る姿勢を大切にしていきたいと思います。

「自分が生きている間に、この様な感染症に巡り合うとは思ってもみなかった」

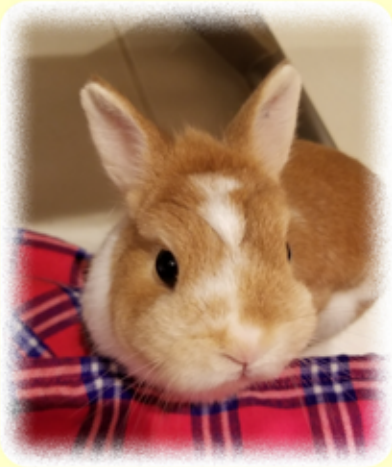
これはきっと大多数の方がこの半年間に感じた事かもしれません。今の世の動きを見回して見ますと、新型コロナウイルス感染症の蔓延により、私たちが暮らす世の中の様々な問題点が浮き彫りにされています。我が国の医療体制を始め、多くの脆弱な面が明らかになったのは紛れもない事実であります。そんな状況で有るからこそ、今日に至るまで当院が大切にしてきた本質的な部分で決してぶれることなく、今後も変わらずに全職員が日々の業務に全力を尽くし、精進を重ねて参りたいと思っております。その先に、より逞しく、そしてより高い次元に到達した当院の姿がおぼろげに見える様な気がします。

繰り返しにはなりますが、当院が法人内施設の連携の核となり、当法人の成長につながるように法人全体を牽引することが出来れば素晴らしい事であると考えています。

法人の全職員の皆様方が、健康に十分留意してこの度の新型コロナウイルス禍を乗り切ることができることを心より祈念しておりますし、全職員並びにその御家族を守ることは、法人が果たすべき最も大切な使命の一つであると常に思慮しております。

全員で力を合わせて、今ある危機を成長の機会とし、そして成長の糧として行きたいと思っています。

松本院長宅飼い兎
今号の「キャロル」ちゃん



新型コロナウイルス感染症対策と法人内連携の重要性

総合相模更生病院

院内感染対策室　室長

篠川　由美子

新型コロナウイルスが世界中に猛威を振るい始めて、すでに半年経過していますが、いまだ衰えることなく感染への不安は尽きることはありません。そんな中、更生病院では、新型コロナウイルス感染症の入院患者の治療・看護を経験しました。それはまだ、日本国内での新型コロナウイルス感染症の発症患者が出始めたばかりの2月中旬でした。通常なら、感染症指定病院へ転院することが定石ですが、当時横浜港に寄港したクルーズ船内での集団感染により、関東地区の感染症指定医療機関の病床はすべて埋まってしいました。そのため、当院で発症が確認された患者さんを感染症専門の病院へ転院させることは不可能となったのです。

感染症対応の特別な設備を持っていない当院では、必要な人員も防護具も不足していましたが、病院長の指揮のもと看護部長を始め病院幹部を中心に、試行錯誤を繰り返しながらリスクを回避しつつ新型コロナウイルス感染症という未知の感染症に向き合ってきました。

当初、相模原市内では行政からの委託事業である「帰国者・接触者外来」を設置している病院が3施設ありましたが、一般の病院ではまだ新型コロナウイルスへの対応に戸惑っている状況でした。そんな中で当院は他の病院に先駆け病院玄関前にて発熱者トリアージ、テント・コンテナを使用した診療を実践してきました。

私たちが取り組んでいる新型コロナウイルス感染症への対応は、大病院と比較すれば規模が小さいものですが、地域の方々の不安を少しでも取り除き、安心して医療を受けられる体制づくりを日々模索し続けています。

毎日のように報道される新型コロナウイルス感染症のクラスターは、様々な業種、業界で起きています。その中でも特に、病院や老人ホームなどの介護施設においては、免疫力の衰えた患者や入居者への感染が拡大し、重症化する事例も報告されています。新型コロナウイルスを始め多くの感染症対応の知識は、病院のみならず「健康弱者」への介護やケアを担う業種においても必須と言えます。

病院が持つ感染症対応の経験や知識と、施設が持つ老人介護などの知識を法人内で共有することは、法人全体が成長するために有益であると思います。その手始めとして6月に相陽台ホーム、7月にはワゲン新横浜にて長期化する新型コロナウイルスに打ち勝つための勉強会を開催しました。このような取り組みは今後も回数を重ねることで、法人内の連携をさらに強め、お互いに協力し合う仲間となることができると考えています。

2020年3月より感染対策室に配属となった薬剤師の小林と申します。

今後は感染対策室長と2人3脚で院内の感染対策に努めて参ります。宜しくお願い致します。

院内感染対策室　副室長

薬剤師・小林　求

各事業所の取り組み（コロナ対策）

総合相模更生病院

「総合相模更生病院における新型コロナウイルス感染症対策について」　　総合相模更生病院　感染対策室　篠川由美子

当院では、新型コロナウイルス対策について検討する「コロナ会議」を毎週金曜日に開催しています。会議のメンバーは院長、副院長、看護部長を中心に看護部門、事務部門、感染対策室が加わり、病院全体としての方針の取り決めのほか具体的な対策の細部に至るまで協議しています。たとえば面会制限や荷物の引き渡し、入院時のアナムネ聴取、病状説明の場所なども含めた感染対策のグレードをレベルⅠからⅤまで設定しており、神奈川県や都内の新型コロナウイルス感染症発生状況や、相模原市の発生状況、院内での検出状況などを鑑み、レベルを決定しています。職員が現在のレベルと内容を確認できるよう、電子カルテに表示し、周知徹底を図っています。

外来部門では、病院玄関前にて医事課、看護部の協力のもと病院を訪れるすべての人に対し、検温と風邪症状の有無の確認を行っています。

風邪症状がある場合には、院内で抗原検査を行い、必要に応じて血液検査やレントゲンなどの検査を加え、早期発見に力を入れています。

患者対応に当たる看護師や窓口職員にはシールドマスクなどの防護を行い、院内に立ち入る人すべてにマスクの着用と手指消毒を義務付けるなど、感染対策に注意を払っています。

ワゲン新横浜

ワゲン横浜では、施設利用者及び職員の生命を守る事を最優先とし、新型コロナウイルスの感染拡大が広がった令和２年２月長期入所の受け入れの制限と、短期入所においてはどうしても在宅での生活が困難な方以外は原則受け入れないという方針を定め緊急事態宣言が解除されるまで堅持いたしました。

事業所の決定は近隣地域や病院等にて発生した新型コロナウイルスを事業所に入れない事には成功いたしましたが、事業所の稼働率については著しく低下し、収益に重大な影響を与えてしまう事となりました。

現在は、第１四半期の反省も踏まえて事業の継続性と事業所に係る全ての方々の安心・安全をどのようにバランスを取りながら運営していくべきか検討しているところです。

事業所として施設に入所されている方や職員に対する万全な安全管理を行いつつ、地域に必要とされる施設として、やらなければならない事を明確にする事により事業所に関係する方々が安心して生活できる状況を目指しています。

具体的には、施設長も含めた会議の中で施設としての基本方針の策定を行い、施設一丸となって新型コロナウイルスの脅威に対して取り組んでいけるよう各種準備を進めております

基本方針の策定と並行して感染症に係る衛生用品の管理状況の事業所内における可視化や新しい面会方法の導入（窓越し面会・オンライン面会等）に取り組んでいます。

ワゲン新横浜は今回の新型コロナウイルスに伴い、大きな社会的変化を危機だけの形でとらえず、これからの高齢者福祉事業における変化ととらえ社会の変化に合わせて事業所のあり方を変化させ、今回の危機を乗り越えていきたいと考えています。

各事業所の取り組み（コロナ対策）

相陽台ホーム

『人は城、人は石垣、人は堀、情けは味方、仇はコロナなり』

こんにちは、相陽台ホームの武田信玄こと鬼滅10番目の柱の常盤でございます。
感染対策で最も大切なこと、それは「一人ひとりがしっかりとルールを守って行動すること」それと「職員が力をあわせ感染予防に取組むこと」と私も皆様と同じに信じております。　ですから武田信玄の「人は城。。。」の言葉どおり「人（全職員）」が感染対策の全てなのです。

相陽台ホームでは、朝夕に地域支援課の皆さんが両手に消毒スプレーとペーパータオルを持って二刀流でエントランス、ロビー、手摺やテーブル、トイレまでも消毒してくれております。そして生活支援課と総務の皆さんは休みなく電解次亜水を作り、各階設置の噴霧器に注入し、お城（ホーム）を除菌の霧で包んでくれております。
勿論、看・介護の皆さんは、ご利用者の体調管理に余念なく、変化の兆しを見逃しません。こうして相陽台ホームという“強固な城”は感染症から守られていくのです。

ワゲン療育病院長竹

新型コロナウイルス感染の終息の兆しが見えない中、ワゲン療育病院長竹では行政機関からの情報や、市中感染状況に注視しつつ感染対策に努めております。国内での発症確認から「コロナウイルス対策会議」を定期開催し、感染症に繋がるリスク管理をしています。対策会議では、施設および外部機関への入退出の状況、関係者・関係機関の罹患状況の確認や、職員及びその家族にコロナウイルス感染が疑われた場合の対応を提示し、発熱のみの症状に限らず、特変時は出勤前報告を行うことを徹底しています。また、感染症に係る衛生用品の管理状況については、随時情報の共有に努めながら対応の更新を行っています。
特に施設の入退出に伴う、ご家族様の面会制限は、ご入所者様・ご家族様のご理解をいただく中、2月下旬から6月下旬にかけて禁止とさせていただき、緊急事態宣言が解除された後、時間を制限する形で面会を再開させていただいております。

状況が長期化する中で、施設長からはご家族様宛に施設対応と状況をお伝えすることを目的として、家族一斉メールを配信しています。2月下旬から配信した一斉メールは6月下旬には第9報までをお届けするに至っています。

感染症の対応は職員の意識の向上にも広がり、自分自身が感染源とならないために、手洗い消毒の徹底、マスク着用方法の再確認にも繋がりました。面会制限期間に中止としていた短期入所についても徐々に受け入れを行いながら、入所後は24時間個室管理などの対応に努め現在に至っています。

まだ終息は見えませんが、現状を非日常と捉えず、考え方の工夫で安全な生活をお届けすることを目的に、これからもコロナウイルスと向き合って参ります。

各事業所　入職式・研修

総合相模更生病院

総合相模更生病院は２１名の新入職員を迎え入れました。
コロナウイルス感染対策を十分に行い、無事に入職式を終える事が出来ました。
関係各所の皆様方、御協力ありがとうございました。

ワゲン新横浜

ワゲン新横浜としては4名の新入職員を迎え入れました。
コロナウイルスの影響で、事業所での小規模な入職式となってしまいましたが、緊張感の中にもフレッシュな笑顔あふれる式となりました。

相陽台ホーム

相陽台ホームでは新たに３人の新入職員を迎え、令和２年４月１日に入職式及び研修を行いました。
例年ですと、法人全体で行う入職式及び研修ですが、今年度は新型コロナウイルス感染防止のため、各拠点での開催となり、少し寂しくなりましたが、当施設に入職する職員の顔は希望に満ち、大変頼もしいものでした。
入職式では座間会長から法人についての大切な話や、ご自身が子供のころの面白話をしていただき、重みの中に笑顔がある素敵な式になりました。
新人研修では、「理念について」「就業規則」「認知症について」「理念に基づき、行動目標を立てるグループワーク」と、法人新入職員研修の内容に沿って実施しました。
ちなみに、相陽台ホーム３人のチーム名は「健温児　恵」で、立てた行動目標が「心からの笑顔とありがとう」を実践するとなりました。

『あの人　この人　こんな人』

わげん便りシリーズ企画といたしまして、各法人の人物紹介を行いたいと思います。

都市型軽費老人ホームワゲン本所　施設長　濱田 昌宏さん

1．今の職業に就いた理由を教えて下さい。

20年以上前に友人から高齢者や障害者のホームヘルパーの仕事を紹介されたのがきっかけです。ヘルパーとして訪問した際に、ご利用者やご家族から直接感謝のお言葉をいただくことが多く、やりがいを感じ、高齢化の進行や医療の進歩により今後ますますニーズの高まる仕事だと考えて介護福祉の仕事に就きました。

2．趣味を教えて下さい。

将棋と旅行、読書です。将棋はオンライン対局やAIで日々研鑽しています。旅行は新型コロナウィルス感染拡大防止のため自粛中です。温泉の後のビールが待ち遠しいです。読書では、『心に響く小さな5つの物語』（致知出版社）、『生き方』（稲盛和夫著）、『論語』を好みます。YouTubeで上記書籍に関する動画を視聴することもあります。

3．異動にあたって、今後の抱負を教えて下さい。

4月から都市型軽費老人ホームワゲン本所（東京都墨田区本所）へ異動し、施設長を務めております濱田と申します。これまで、法人内の特別養護老人ホームや重症心身障害児者施設で勤務しておりましたが、都市型軽費老人ホームでの勤務は初めてとなります。

都市型軽費老人ホームの入居対象者は、身体機能の低下等により自立した日常生活を営むことに不安があると認められ、家族による援助を受けることが困難な方とされております。原則60歳以上で施設所在区市に住民票を有する等の条件もあります。定員は20名以下で全室個室となっています。地価が高い都市部でも整備が進むように従来の軽費老人ホーム（ケアハウス）と比較すると、居室面積や職員配置に関する基準も緩和されています。

新型コロナウィルス感染者数が国内最多の東京都で9名の職員が入居者と職員自身の感染防止に全力を尽くすべく、法人から各施設に届きましたカテキン除菌噴霧器も活用しています。日常生活動作はおおむね自立している高齢者を対象とした施設で入居者が安心して円滑に共同生活を営めるように職員一同努めております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

前号のお詫びと訂正

前号の「あの人・この人・こんな人」に掲載させていただいた、小坂周平様の職種欄が「介護福祉士」となっておりました。正しくは、「社会福祉士」となります。ご本人様、又、関係各所の方に大変ご迷惑をかけてしまい申し訳ありませんでした。この場を借りて、お詫びと訂正をさせていただきます。
今後、校閲ラインを強化しますので、法人広報誌「わげん便り」を宜しく御願い致します。

2020.10.Vol.17
■編集：ワゲン福祉会　広報　■お問い合わせ先：〒252-5225　神奈川県相模原市中央区小山３４２９
■mail：wagenkouho@wagen.or.jp　※わげん便りは社会福祉法人　ワゲン福祉会で出版されています。